

2024年出版市場

紙+電子は1.5%減の1兆5,716億円、紙が5.2%減、電子が5.8%増

出版業界の調査研究機関である（公社）全国出版協会・出版科学研究所（所在地：東京都新宿区 理事長：近藤敏貴）は、2024年（1～12月期累計）の出版市場規模を『季刊 出版指標』2025年冬号（1月24日発売）で発表しました。紙と電子を合算した出版市場（推定販売金額）は、前年比1.5%減の1兆5,716億円。3年連続の前年割れも落ち幅は縮小。内訳は、紙の出版が同5.2%減、電子出版が同5.8%増。紙の出版は書籍、雑誌ともにマイナス。電子出版は、コミック・書籍・雑誌いずれもプラスとなりました。

紙（書籍・雑誌）市場はかろうじて1兆円を上回る

2024年の紙の出版物（書籍・雑誌）の推定販売金額は前年比5.2%減の1兆56億円。かろうじて1兆円を上回りました。内訳は書籍が同4.2%減の5,937億円、雑誌が同6.8%減の4,119億円。書店の閉店が続き、書籍・雑誌ともに依然厳しい数字となりましたが、店頭売り上げは書籍が前年を上回るなど、既存店では回復傾向が見られます。書籍は文芸・学参・ビジネス書などが好調でした。雑誌は月刊誌（ムック、コミックス含む）が同6.3%減の3,494億円、週刊誌が同9.3%減の625億円。月刊誌の内訳は定期誌が約5%減、ムックが約2%減、コミックス（単行本）が約10%減。『MORE』『Mart』『steady.』『ポポロ』などが休刊。コミックスはアニメ化によるヒットもありましたが、前年、前々年の規模には遠く及ばず、既刊も伸び悩み3年連続の大幅減となりました。

電子出版市場は5,660億円、全ジャンルでプラスに

2024年の電子出版市場は同5.8%増の5,660億円。内訳は電子コミックが同6.0%増の5,122億円、電子書籍が同2.7%増の452億円、電子雑誌が同6.2%増の86億円。電子コミック単体で5,000億円を突破、コロナ禍前の2019年から5年間で倍増しました。各ストアは出版社との協業による独占・先行配信やオリジナル作品の強化、割引・ポイントバックなど様々な施策を積極的に展開しています。電子書籍はライトノベルや写真集が牽引し3年ぶりのプラス。電子雑誌は「dマガジン」「楽天マガジン」の値上げにより、こちらもプラスに転じました。

■ 紙と電子の出版物販売金額

(億円、%)

年	2019	2020	2021	2022	2023		2024		占有率	
					前年比	前年比				
紙	書籍	6,723	6,661	6,804	6,497	6,194	95.3	5,937	95.8	37.8
	雑誌	5,637	5,576	5,276	4,795	4,418	92.1	4,119	93.2	26.2
	紙合計	12,360	12,237	12,080	11,292	10,612	94.0	10,056	94.8	64.0
電子	電子コミック	2,593	3,420	4,114	4,479	4,830	107.8	5,122	106.0	32.6
	電子書籍	349	401	449	446	440	98.7	452	102.7	2.9
	電子雑誌	130	110	99	88	81	92.0	86	106.2	0.5
電子合計	3,072	3,931	4,662	5,013	5,351	106.7	5,660	105.8	36.0	
紙+電子	紙+電子合計	15,432	16,168	16,742	16,305	15,963	97.9	15,716	98.5	100.0



『季刊 出版指標 2025年冬号』

頁数：95ページ

判型：B5判

発売：2025年1月24日（年4回 25日発売）

頒価：4,400円（本体4,000円+税）送料別

【第1特集】2024年 出版物発行・販売概況

【第2特集】2024年 電子出版市場

【第3特集】データからみる翻訳文学の現状

<本件に関するお問い合わせ>

公益社団法人 全国出版協会・出版科学研究所 担当：原・柴田

〒162-8710 東京都新宿区東五軒町6-24 TEL 03-3269-1379 FAX 03-3266-1855

<https://www.shuppankagaku.com>